

### 時局下の新入學生に告ぐ

學長 神 戸 正 雄

現下我國は世界の二大富強國、米英を向ふに廻して決戦に決戦を續けつゝあるの時、諸君は先づ此の緊迫したる時局を認識して、時局に適合したる態度に出づることに意を用ひなければならぬ。

諸君は諸君が本學の公平無私なる入試に及第したることに依りて、先づ以て各自の學力、素質につき自信を有たれんことを望む。自信は向上の第一礎石である。併し同時に自負慢心を戒む。慢心は退歩の第一歩である。むしろ此の機會に父兄師長の恩義を感謝せられよ。かくて私は諸君の入學を祝すると同時に、私としては人類ありてより幾千萬年の間に、時を司

じうし處を同じうして茲に諸君と共に生を受け、師となり弟となりて俱に學び俱に進む奇縁に感激し、諸君に教を垂れつゝ、諸君からも教へらるゝ所の渺からぬことを期待するものである。

諸君が本學に入りたる以上、本學の學則に従ひ本學の躰に従ふべきは勿論である。時局下學生に相應したる諸の規律、禁煙、徒歩勸行、頭髮丸刈、服裝統制などを守られなく、風儀を紊らす、學生の體面を傷くる場處には出入せざるやう厳に慎まされたい。

本學々生が精神的に崇敬すべき標的となる場處が三箇所あることをも先づ記憶されたい。第一は御

大正十二年六月十五日印刷  
昭和十八年四月十日印刷  
昭和十八年四月十五日印刷  
編輯人 神 戸 正 雄  
大正市北區電報  
上三丁目十五番地  
電話 四六七(今) 四四四(新)  
大正市大塚區長尾  
四丁目十二番地  
電話 二〇〇三(本) 二〇〇四(支)  
會員註冊費三〇六〇〇円

時局下の新入學生に告ぐ……………神戸正雄(一)

決戦下の報國論……………和田登(二)

豫科の修練……………八島治(三)

學 内 報……………(五)

昭和十八年度大學豫科・專門部學科擔任表……………(六)

昭和十八年度入學試驗問題……………(八)

支 隊……………(二)

昭和十八年度入學者出身學校別調査表……………(三)

眞影泰安所、第二は忠靈塔、第三は和氣清麿公の肖像である。尚ほ第四に場處は固定して居らぬが、諸先生を崇敬することを忘れずはならぬ。

學校生活に於て學業の勳勤が第一事であることいふまでもないが、此にては點數や席次を爭ふ弊に陥らず、實力を養ふことに意を用ひ、思索力、創造力、應用力を練成するやうに努力し、一を聞いて十を知るやうになることを期せられたい。

學業の勳勤は勿論だが、過度の勉強は健康に害ありとする。生命あつての學問である。健康の保持に氣を著けられよ。但し過度の運動も有害である。即ち適度の運動と適度の勉強とが望ましい。尤も今日學校にては教練、體操が強化されて居り、校園園の環境もあり、

其の上、報國隊としての時々の出動もあるので、身體の運動は凡ての人が相當に行ふやうになつて居る。

次に精神的道義的の訓練としては、人間として誠を有つことが第一で、之よりして君に忠ともなり、親に孝ともなり、更に兄弟師友にも、未知の人に對しても敬、信、愛などの美德を發揮し得る。誠なき道は虚偽に陥る。最も戒むべきである。それだけではない。日本に生れたたる皇國民としては報國精神に徹し、國の爲め大君の爲めには取調、耐窮、如何なる難事をも行ふといふ烈々たる氣魄を養ふことが當然であり、時局下には最も大事なことである。

尚ほ道義的の方面については學校及び父兄よりしての爲すべし爲すべし

上第五頁下段につづく

# 決戦下の報國團

専門部主事、教授  
専門部第一部長  
報國團總務部長

和田 豊 一

従来の學友會は、日支事變に突入せる國家の要求に基き、新たに報國團の體制を整へた、娛樂的氣分の多分に含まれた競技本位の練成方法を廢めて、集團的修練方法を採るに至つた。對校的な敵愾心の昂揚よりも、學學的健民練成の目標に進み出したものである。このことは學生の鍛練を一手に引き受けてゐる學友會が國家との關係を考へた場合、當然に進むべき道であつた。學友會が當然報國團の體制へと飛躍した所以も茲にある。勿論従来の學友會と雖も全學生の鍛練を考へなかつた譯でもないが、競技の勝敗に中心を置いてゐる關係上、勢ひ所謂選手制度式の鍛練となり、全學生の健全にして強靱なる體魄の練成は餘り意識されなかつたのである。従つて報國團の目指す鍛練に關する精神を充分に持つ限り、従来の學友會の設けたる各事業種目をそのまま存置せしめても、さしたる支障は起らない筈だと考へられた。殊に本専門部の如く、專屬の鍛練道場を除き持ち合はさないとするところは、出來得る限り種目の數を減らして、夫々の種目に若干名宛の學生を分屬せしめ、夫々の適當な校外道場に於て鍛練せしめる事に依り、報國團の目標とする學學的鍛練効果を、その幾分

なりとも收め度いと云ふ事案にあつては猶更である。然し種目の數を減らすことは報國團の豫算に制肘される。本報國團が、若干の不適當と考へられる種目に變更を加へた外、大概學友會時代の種目をそのまま存置せしめてゐる所以は以上の如き理由に依る。ところが種目をそのまま存置せしめると實際上は、學友會時代の形をそのまま受け繼いでゐると云ふことになる。内に立派な精神を凝してゐても、形が整はなければその精神は漸次萎散消する。唯適當な指導者があれば、精神に基いて形は自ら整へられて來ることもならう。不幸本報國團には専門の指導者を欠いてゐる。報國團となつても學友會時代と少しも變らないではないかとの批難を一部より受けるのも蓋し形の上からのものであらう。報國團の運営、その効果等はその事の性質上多少の時日が必要である。それは兎も角として、内なる精神と外なる形との不釣合は、報國團にとつて急進に是正されねばならぬ問題であつた。この不釣合は本専門部のみならず、可成り全國的な問題であつたであらう。文部省は一昨年報國團の集團的訓練強化の意味に於て全國的に報國隊の結成を命じた。本報國團に於ても早速報國隊を團員全部を以て結成し、報國團の精神を一段と強化すると共に、勤勞作業食糧増産、防空訓練等の實踐を通じて形を整備に努めた。然し報國團の從來の事業種目はそのままであつた。唯報國隊の結成に依つて我々が明かに意識しなければならぬ事は、報國團は報國隊を通じて國家に――國防國家に――一層緊密な關係を持つに至つたと云ふ事である。報國團は學友會の衣替へしたものに過ぎないと云ふ深な生やさしい考へを掃拭し國家の總力結成に一翼を受け持ち、國防國家完遂に邁進することが、報國團なる名稱の明示する如く、自己本來の使命であることを今更ながら自覺せしめられたのである。報國團と國家との間には、太い明瞭な直線が描かれたのである。報國團のメエの存在が、可成り然として來た譯である。事變の長期深刻化且つ大東亞戰の展開につれ、報國團が報國隊を通じて活潑に活動し出したのは、茲に原因する譯である。

ところが今文部省は、戰時學生體育訓練實施要綱を決定發表された。平時には平時の、従つて戦時には戦時の訓練要綱があるべきだと立前より決定されたものである。該要綱に戦時なる文字の見らるゝのはそのためである。正課としての學徒訓練に關しては、夫々訓練教授要綱なり修練指導要綱なりが既に決定されてゐるから、該要綱は主として課外としての訓練に關するものと考へてよい。勿論論訓練の根本精神に至つては一いつて二あるべき筈がないから、正課に於ける根本精神は以て課外に於けるそれである。

該要綱に示された根本方針は五つある。要約すると次の如くである。曰く、戦力増強、卒業後直ちに將兵として戰場に赴き得る探訓練を強化すること、大會試合等は平素の訓練の普及強化徹底なるにつき平素の訓練と不離一體に於て實施すべきこと。正課を含み毎日一回以上全學生をして訓練せしめること、衰弱學生の強健化を圖ること。以上の方針は相互に關係を持ちながら究極に於て戦力増強の一點に歸するのではないかと考へられる。従つて課外の訓練を行ふ報國團の運営上の根本方針は、畢竟戦力増強に在り云へよう。戦力増強は決戦下の報國團に於て、尠くとも訓練に關する限り、その究極の目標であり、又その出發の前提でもある。従つて訓練種目の選定、實施方法の確定等の諸問題は、すべてこの目標に照合して判斷されねばならぬ。そこで要綱は課外の訓練種目を戦技、其體、特技の三訓練に分け、更に戦技訓練を行軍・戰場運動・銃劍道・射撃の四種に、其體訓練を體操・劍道・柔道・陸上運動・水泳・雪消・球技「開球その他適當のもの」の七種に、特技訓練を海洋・航空・機甲・馬事の四種に細分してゐる。要綱は細分にされた夫々各種目の訓練方法について大綱的指示を與へてゐる。勿論

體力増強の原則から期り出された指示である。報國團はこの要綱に依つて、報國團創設當時と異なり、遙かに具體的な精神が興へられ、而もその精神に依つて各訓練科目は質的に變化せしめられて来た。前の表現に倣へば内なる精神と外なる形との不釣合が除かれたとも言へる。或は又學友會より報國團に進展した當時に於ては、學藝的とか集團的とか殊に數量的な方面に力點を置く傾向が一般に見受けられたが、今回の要綱は、その上更に報國團をして質的變化を招來せしめたとも言ひ得るのであらう。

兎も角も報國團は一段と現實に根を下して来た。その訓練も從來の専門的孤立的でなく、綜合的實際的效果をねらつて来た様である。

本報國團に於ても要綱の趣旨を立前として、訓練科目に改正を試みた。即ち第一部に於ては國防訓練部に海洋訓練を新設し、體操部より、弓道・野球・庭球・卓球・籠球・蹴球・ラグビー・投球各部を廢止し、拳法を柔道に抱換し、登山・スキーを山岳部に包攝した。第二部に於ては報國團を新しく構成し、體操部より相撲・卓球を廢止した。是等の改正は主として専門部の完成教育なること、資材設備の不備不足なること、試合大會等に制限あること等の諸點を考慮しつゝ、戦力増強の目標に照して決定されたものである。廢部の反面報國團は積極面を考慮せねばならぬ。廢部の爲めの改正ではなく、

積極取爲のための改正であることを忘れてはならぬ。現在各種目が戦力増強を遂げなく最高度に發揮する操工夫を凝らさねばならぬ。今や報國團は學校所屬の訓練團體であるよりも、國內戰場の勇士たる性格を持つて来たのである。報國團と

## 豫科の修練

豫科學生主事・教授  
豫科長國團總務部長

八 鳥 治 一

調期的學制改革の結果、皇國の道に則る皇國民の練成といふ一貫せる教育方針が明らかにされ、教授要綱、修練要綱に據り、新制度運営が爲されることになつた。修練要綱の主旨は「動もすれば教室、寮舎、運動場等に分裂し易き學校生活と綜合一貫せしめ心身相即の鍛練の下に國家將來の指導的人材を練成せんとするに在る」ものでその内容は生活、研究、體操の三部から成つてゐる。本稿に於ては生活、體操の面に於ける本學豫科の修練實施要項を記して見ようと思ふ。

今日、大學を卒業するや學徒の殆ど全部が必ず皆が皇軍の榮えある將校とならねばならぬ。而してその幹部候補生の數たるや、實に全將校の過半を占むるといふことである。とすれば幹候補の資力が如何に重大であるか又その資質如何がどれ程大きな影響を此後の戦局に與へるであらうかを考へるならば、決戦態勢下に國家との直線的關係と云ふ表現に満足してゐられたのは從來の報國團であつた。報國團は國家の意圖を意圖として國家的活動をせねばならぬ團體である。如何に苦しくても戦力を増強する爲めに日々の鍛練を怠つてはならぬ。

### 一、生活要項

修練は單に修練の時間のみに行ふのではない。朝眼が醒めると同時に修練は切まるのである。生徒の生活全體がその修練の對象となるのである。國家の要請に應じて立つべき指導的人材の資格として、頭腦の優秀もとよりであるが、更に強靱なる體力、不屈不撓の精神力の持主であると同時に指導民族にふさわしい品格を持たねばならぬ事が擧げられるが、同時に、豫科生は現在の地位に於て弟分たる中等學校以下生徒兒童のよき指導者でなければならぬし、又一面一般社會人に對する無言の指導力が如何に大きいか

を考へなければならぬ。たとへばは後が徒の毅然たる態度、潑刺たる言語動作が默々の裡に頼もしい信頼感を社會人に與へ、油然として湧く至誠盡忠の國民的感情の油槽として役立つものである事を考慮に入れて學徒の生活態度を訓練すべきである。

直擊敬虔なる念と嚴肅なる態度を以つてなす敬禮の嚴守。端然たる姿勢、容儀の堅持を極力勵行すと共に、次に掲げる勵行事項を學徒の生活面に織り込み、健全にして氣品ある習慣を養成せんとするものである。

#### 1 大學豫科生徒勵行事項

- 1 大學豫科生徒は學則第八條を遵守すると共に左の事項を必ず勵行すべし。
  - 一、登校下校に際して「御眞影奉安所に對し奉り最敬禮をなし、次で忠靈塔に對し拜禮をなすこと。
  - 一、師長に對しては舉手注目停止敬禮をなすべし。
  - 一、登校の際校舎の入口に於て朝の挨拶をなすこと（代表委員に對し舉手の禮を以て之を行ふ）
  - 一、教室、教授室、圖書閱覽室、事務室等に入るときは必ず帽子を脱すべきこと。
  - 一、教室の神聖を保持し毎日放課後交替にて清掃をなすべし
  - 一、遲刻者は入場許可證を學生課にて

受取り入場すること、但二十分以上の遅刻者は入場を禁ず。

一、電車通學の場合は新京阪「懸津」下車徒歩通學をたすこと。

一、通學の途次電車内にては起立勵行のことに。

一、通學の途次は卷脚絆を着用すること。

一、服装規定を遵守すべきこと。(和服、通學外套、襟巻、手袋、紳士靴の使用を禁ず。)

2 週審制度  
練成道場としての學園の神聖、規律ある學生々活を保持せんが爲めに週審制を設置す。週審は上級學年各學級より二名宛命じ、生徒勵行事項の指導監督にも當る。

3 受驗資格規定  
正當の理由なき遅刻、缺課、缺席に對しては嚴重なる取締をなすと同時に左の罰則を設け學生々活の肅正を期してゐる。

一 正當の理由なき遅刻一回を五點、缺課一回を十點、缺席一回を十五點、特別行事缺席一回を二十點として計算し合計百點に達したる者には學期又は學年試驗の受驗資格を與へず。

1 體鍊要項

體鍊の指導目標は基礎體力の充實と國

筋能力の増進とに置き、體能的行動に資

するに在り、

一、體鍊要項

體鍊の指導目標は基礎體力の充實と國筋能力の増進とに置き、體能的行動に資するに在り、

一、體鍊要項

熟せしめて彼我協同の精神、敢爲邁往の氣象を練り、同時に指揮統制の能力を涵養せんとするに在ること、が示されてゐる。大學理科の目標に前述の如く行軍力増強に重點を置いたのであるが、行軍は時に依り一學級、一小隊、一分隊を一單位として、團體的集團行軍をなし、距離、荷重を徐々に高め最後に縦走行軍に到るを三想とするものである。縦走行軍こそ皇軍聖戰の垂である。肉體力、精神力が完全に一致して、靈肉一如の相に於て突進、目的地に到着するや尙白兵戰への餘裕を残して、烈々たる聲を起して止まむの闘魂を持續せねばならぬ。行軍力の強弱が軍の強弱を示すものと云つても過言ではなからう。

運動場に於ける集合、解散は總て駆走を以て行ふを原則とする。これ行軍力養成の第一歩である。目下實施中のものと及び本年度の企劃は次の如くである。

1 常時體鍊  
午前八時朝禮、朝禮後、イ、駆走訓練、ロ、全校體鍊、ハ、銃劍道、竹刀に依る體道を交互に加ふ。ニ、毎週木曜日 分列式

2 定期體鍊  
イ、練成記録作成(毎月、身長、體重、胸圍、の計測を行ふ) ロ、綜合體力檢定(體力量檢定種目に依る檢定を六月、十月、二月の三回行ふ) ハ、行

軍(體力に依り、距離、荷重を加減し六月、十月、二月の三回行ふ) ニ、水泳訓練(七月下旬、八月下旬、體力量水泳持檢定をも併せ行ふ)

3 特別體鍊  
イ、新入生の基礎體鍊(第一期徒步、第二期銃操、第三期跳箱を主とする體鍊を、正科に體鍊科、教練科の時間なき日一時間を標準として課す) ロ、耐暑、耐寒訓練、ハ、綜合體鍊大會(十一月四日)

4 警防訓練  
全預科生を北消防署、今福消防署、淀川消防署、吹田消防署、及び大學預科特設防護團に配屬し、毎月一回定時訓練を行ふ。

5 集團作業  
校地清掃、鍛鍊農場管理に各學級交替出勤す。

尚、修練に於ける體鍊が基礎體力、國防能力の養成にあるに鑑み、課外として訓練すべき鍛鍊種目を修練のそれと一致さす方針をとり豫科報國團の班組織を次の如く改正した。

國防訓練部——行軍班、戰場運動班、銃劍道班、射擊班、航空訓練班、海洋訓練班、機甲訓練班、馬術訓練班。

體鍊部——體操班、陸上運動班、劍道班、柔道班、水泳班、相撲班、弓道班、球技班。

文部省推薦圖書

(三・四月、授受)

○日本演劇論 新編 夏三著 収美堂書店

○千利休 桑田 忠親著 青磁社

○あび方の科學 相良 守次著 羽田書店

○海戰 丹羽 文雄著 中央公論社

○深洲印象記 松水 外雄著 羽田書店

○佐久長東雄 望月 茂著 大日本雄辯會

○嶺土に叫ぶ 松田益次郎著 松田書店

○新日本體育 前川 滋雄著 教育科學社

○物語維新史・安政大獄 足立 勇著 大日本出版社

○ソロモン海賊艦隊 清水 進著 葦文莊

○十和田湖の開發者 佐々木千之著 三省堂

○和井内貞行 三 省 堂

○平田篤胤 伊東水之介著 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

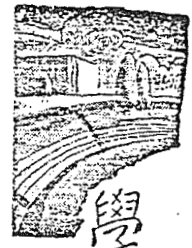
○平田篤胤 伊東水之介著 僧 成 社

日本出版 推薦圖書

(第十七回授受)

○先史世界への熱情 ショーリマン著 村田數之亮譯 星野書店

B6 二五頁 二〇〇



# 學 內 報

## 入 學 式 舉 行

昭和十八年度入學式、豫科は四月六日午前九時より豫科講堂に於て、専門部第一等は四月五日午前十時より、専門部第二等は四月一日午後五時より天六學舎講堂に於て舉行、神戸學長の訓辭の後、豫科は村上豫科長、専門部は正井専門部長の訓辭があり、夫れぞれ入學者遠代の宣誓があつて閉式した。

## 通 常 協 議 員 會 開 催

去る三月廿五日午後四時より新大阪ホテルに於て昭和十七年度財團法人關西大學の協議員會が開催され、昭和十六年度收支決算並に昭和十八年度收支決算の承認、寄附行為一部改正につき委員會案を審議決定し、理科系學科新設につき調査委員主任十名を擧げて散會した。

## 人 事 異 動

補法文學部長 教授 野村 次元

任期满了免法文學部長教授 武内 省三  
以上三月卅一日附

任教授(豫科勤務) 助教 西井 克己  
同 (豫科勤務) 講師 村田 敬之亮  
任書記 書記補 井岡 國雄  
以上四月一日附  
依願解職 學部教務課主任 前田 靜平  
以上四月十九日附

## 研 究 論 集 發 行

研究論集第十三號は二月中に發行の豫定であつたが、之れが印刷、製本に手間取り漸く四月下旬發行の運びとなつた。尙論題並に執筆者に二、三の変更あつて左の通りである。

- 法律・政治篇 本文一二四頁 吉田教授
- 帝國憲法の特殊性
- 大東亞共榮圈國際法の基本 川上教授
- 課題(序考)
- 課責特に衣類・調度について 木村教授
- 商法第百八十八條註釋 國藏教授
- 經濟・商業篇 本文一七二頁
- 大東亞共榮圈經濟問題特論
- 大東亞戰爭と日本國民經濟 神戸學長
- 滿洲國の交通 河村宜介教授

世界實政の開發と民族(國  
民)生活

地域集團支那の民族と民俗  
—西歐諸民族論への反駁と  
置換さるべきもの—

イギリス東印度會社による  
印度支那の成立

○文學・哲學篇 本文一一〇頁  
キニルケゴールに於ける瞬  
間の問題

自然界と人事界に於ける秩  
序の思想

歴史的世界と世界史的世界  
英語の「格」

チヨリサーカントベリ物語  
騎士物語

中川教授

中村教授

矢口教授

大小島教授

岡本教授

西井教授

八島教授

廣瀬教授

## が く ほう 抄

村上豫科長 四月十七日より三日間文部會に於ける全國高等學校長會議に出席  
河村宜介教授 四月九、十の兩日大阪中央公會堂における國民食糧問題研究会に出席。  
飯田教授母堂 應召中の飯田正一教授の母堂は去る四月四日東京の自宅において逝去された。  
上道教授母堂 四月十三日午後八時廿分生吉區山坂西ノ町一ノ一一の自宅において逝去された。  
片山正直講師 西宮市段上橋ア上一ノ二に轉居。

## ○ 預 土 地 帯

アン・イ・ソックス  
松崎 謙 印 評

A 5 四〇頁 六三〇

○アイヌ政策史

A 5 一七二頁 七〇〇

○日本法理の自覚的展開

A 5 三三頁 三六〇

○現代ドイツ法哲學

A 5 三〇頁 三三〇

○北支那の農業と經濟

A 5 上三三頁 三三〇  
下三七頁 三三〇

○交通統計論

A 5 五三頁 四八〇

○魚 雷

A 5 二四頁 三三〇

「第一頁よりつゞく」  
べからずといふ指導の外に、其れよりも一層大事なことは、諸君の各自に於て、自己を反省して、自己を見出し、不良なる自己を驅除して、善良なる自己を伸ばすことの工夫、努力を怠らぬことである。私は諸君が不斷、此の自己練成に注意して、自己の完成に努められんことを冀ふものであり、此點に於ては私自らも未完成者として諸君と共に進みたいと念願して居る。

松崎 謙 印 評

高倉新一郎著

日本評論社

小野清一郎著

有 斐 閣

カール・ラレンツ著

大西・伊藤 譯

有 斐 閣

滿鐵調査部著

日本評論社

大槻信治著

岩波書店

大井上 博著

山海堂出版部



銀行論	三木純吉	行政法總論	中谷敏夫	配論、日本經濟史	佐伯三郎	物權法	和田登二
商法英語	河村信一	商法總論、商行為法	野村次天	財政學、社會政策	三谷道麿	經濟地理	中村真之助
漢文	西村勝太郎	海商法、手形法、小切手	安孫光	貨幣金融論	川太郎	海外經濟事情、外國貿易	中川新太郎
論理學、終身	泉宮精一	佛學	賀來俊一	社會學	菅守常	商法	國藏胤臣
心理學、論理學	川村勝太郎	英法語	吉田一枝	工業政策	岩崎享一	英法語	矢口幸次郎
商業政策	吉川貫二	物權法	廣瀨捨三	佛學	賀來俊一	記論	安川安太郎
英法語	橫山左九郎	民法總則	入江真太郎	經營學	加藤金次郎	財政學	佐伯三郎
民法總論、特權論	田中明親	會社法	石田文次郎	銀行論、論	吉田一枝	貨幣金融論	三谷道麿
工業政策	高木秀玄	論理學	原田慶太郎	商業政策	三木純吉	倉庫稅關	菅守常
東亞問題	山口辰雄	獨語	西田碩文	特殊經濟問題	羽田正一	工業政策	野村次夫
商業英語	松原謙由	英法語	小川忠藏	經濟學	橋本源吉	佛學	賀來俊一
會計學、會計監查	古島美貞	獨語	奧宮精一	經濟學	西村勝太郎	交通論	加藤金次郎
銀行簿記、工業簿記、原簿計算	後藤新之助	論理學	渡邊宗太郎	經濟學	堀經夫	交通論	河村宜介
專門部第一部	有馬進之助	行政法各論	橫山左九郎	經濟學	堀經夫	交通論	河村宜介
統計學	菊田太郎	心理學、論理學	田中明親	東亞問題	堀經夫	交通論	河村宜介
佛學	三木治	法學總論	山木戶克己	獨語	小川忠藏	商法	三木純吉
植民政策	三島律夫	法制史	牧野健二	英法語	與宮精一	漢文	河村信一
商業英語	靜田均	經濟學	松原謙由	交通論、保險論	神宅賀壽惠	銀行簿記、商業英語	西村勝太郎
會計學、會計監查	森政造	獨語	古島美貞	倫理學	吉川貫二	倫理學	西田碩文
銀行簿記、工業簿記、原簿計算	陶山誠太郎	支那語	藤本進治	倫理學	橫山左九郎	英法語	堀經夫
專門部第二部	須藤文吉	債權各論	坂本憲三	心理學、論理學	神戶三郎	東亞問題	德永清行
法律學	川上敬逸	破産法和議法	野澤常三郎	獨語	田中明親	債權法	與宮精一
民法各論	植田重正	佛學	三木治	英法語	高木秀玄	保險論	神戶三郎
親法、相親法、遺囑	柳瀨兼助	英法語	鈴木富太郎	政治學	角田文雄	論理學	吉川貫二
遺囑、遺贈、特種遺贈	福島四郎	經濟學	和田登二	文法總則	長政政	論理學	橫山左九郎
財政學	三谷道麿	經濟地理、植民政策	中村真之助	統計學、農業政策	坂本憲三	論理學	田中明親
商業	菅守常	海外經濟事情、外國貿易	中川新太郎	佛學	菊田太郎	論理學	田中明親
社會學	菅守常	經濟史、經濟學史	國藏胤臣	經濟學	三木治	商業政策	高木秀玄
	菅守常		矢口幸次郎	商業學	正井敬次	商業政策	八木秀玄
	菅守常			商業學		商業政策	松岡孝兒
	菅守常			商業學		商業政策	黃三

商學叢書、商業簿記、商業英語	後藤新之助
民法總則	坂本憲三
會計學、會計監査	木村頌楠
佛語	三木政造
商業英語	森政造
工業簿記、原價計算	須藤文吉
英語	鈴木富太郎
文學科國語漢文專攻科	
經濟原論	正井敬次
英文、支那文學史、支那哲學史	高橋盛孝
國語、國學	安川安太郎
法制史、憲法	吉田一枝
英語	廣瀬捨三
西洋史	西井克己
國民道德、實業論	一海景春
東洋史、日本漢學史	石沢純太郎
言語學	今川太郎
教育學、教授法	橋本進吉
漢文	川村路太郎
漢文	桂太郎
國語	吉澤義則
英語	吉田庄太郎
國語、國文學史、文學概論	吉永登
論語學、哲學	横山左九郎
國語學、國語學史、國文學	田中健三
心理學、論理學	田中明親
法學通論	田畑茂二郎
漢文	土橋文夫
國語	山脇毅
漢文	山本敬治
漢文	坂田章太郎

昭和十八年度

入學試驗問題

大學課科

國語

一、次の文を解釋せよ

人を責むるはあらはなるを責むべし。

まつおもてあらためたれば善しとこそ

いはれ。かれは虎の皮きぬる羊なりと

いはれ。羊てもせよ、虎の皮きたら

ば虎にしてこそ養はれ。さらば千里は

走らずとも、羊の力のおよぶたけは走

りもしらん。

二、かへらじとかれて思へば梓弓亡き

數に入る名をぞとむる

右の和歌の中より活用ある語を指摘し

その品詞種類及び活用形を示せ

ロ、ふみ分けよ大和にはあらぬ唐島のお

とを見るのみ人の道かは

右の歌を解釋せよ、作者は誰か

三、次の片假名の部分に漢字を宛てよ

イ、歴史をヘンサンする。ロ、聲帯を

ケウセイする。ハ、氣風をサマシム

る。ニ、原因がサタソソする。ホ、曲

由をソクハクする。ヘ、天業をクワイ

コウする。ト、人類のフクシを特進す

る。チ、外國の制度をサンシヤクする

リ、國本のハイキヤウにコウケンする。

一、二版とも句讀訓點を施し且つ等線ある

句を添附せよ

一、後周世宗號令嚴明人莫敢犯攻城對敵

矢石落左右學不動容惡機決策出人感

表又動於政事聞奏則召諸將讀史語臨

大義性不好絲竹珍玩之物常言我必不

困乎其人因怒刑人文武參用各盡其能

人畏其明而懷其惠。

二、兵貴神速一語豐公用之懸岳而大有驗

用之長歎而不濟事故曰知彼知己百戰

不殆豐公雖智而知彼則猶暗矣

國史

左記事項ニツキ論譽ヲ説明セヨ

一、崇神天皇の御事績

二、徳政並にその意義の擧述

三、(イ)風土記

(ロ) 御朱印船

英文和譯

(I) I believe that an idle person is

never truly happy, and that too

much work is preferable to having

nothing whatever to do.

(II) In every newspaper there is a

little bit that we ought to read;

the best way is to find that little

bit, and waste no time over the rest.

(III) Two fixed ideas cannot exist

together in the world of mind any

more than two bodies can occupy

the same space in the world of

matter.

(IV) One who has overcome one

difficulty is ready to meet the next

with confidence that it, too, will

yield to his attempt. While

others are hesitating what to do,

or whether to do anything, he

presses forward and accomplishes what

he undertakes.

專門部第一節

法律學科・經濟學科

國語

一、左の文を解釋せよ

にくきものゝそぐ事あるをりにながじ

とするまらうとあなづらはしき人なら

ばのちにたごひひても追ひやりつへけ

れどもさすかに心はつかしき人いとに

くし

二、左の熟語に假名を附け且つ解釋せ

よ

毀譽褒貶、傍若無人、盤根錯節、疲勞

困憊。

三、左の片假名を漢字に改めよ

タンニン(たたく事)、ソシヤタ(か

みくだく事)、キニウツツ、ケンニン

(くりくだる事)、カイギヤン(じやう

だん)

四、左の歌より擧げの活用語を抽出し其

の活用形を記せ

思ひきま山の奥に住居して寝るの

月をよみに見んとす



文學科英語專攻科

英語、英語史	江崎 幸三
英語、英文學史	宮崎 幸三
英語、英文學史	平林 治徳
英語、英文學史	正井 敬次
英語、英文學史	片岡 甚太郎
英語、英文學史	高橋 盛孝
英語、英文學史	安川 安太郎
英語、英文學史	賀來 俊一
英語、英文學史	吉田 一枝
英語、英文學史	廣瀬 捨三
英語、英文學史	西井 克己
英語、英文學史	一海 景荷
英語、英文學史	石渡 純太郎
英語、英文學史	今川 大郎
英語、英文學史	橋本 進吉
英語、英文學史	細江 逸記
英語、英文學史	所 勇
英語、英文學史	大平 一
英語、英文學史	小川 徳藏
英語、英文學史	吉永 登
英語、英文學史	横山 左九郎
英語、英文學史	田中 明親
英語、英文學史	田畑 茂二郎
英語、英文學史	角田 文雄
英語、英文學史	安田 恭平
英語、英文學史	名井 民雄
英語、英文學史	藤本 進治
英語、英文學史	江馬 進務
英語、英文學史	言野 幸三
英語、英文學史	杉平 顯智
英語、英文學史	鈴木 富太郎

未然形	終止形	連體形	活用形	命令形
書け	書く	書く	書き	書け

英文國語

(I) We went to see him one Sunday, and as we approached his cottage, making our way through a crowd of honest farmers, a strong, rolling voice could be heard from within, a voice like some great seavave that gathered force as it came along.

(II) In order to be successful in any kind of undertaking, I think the main thing is for one to grow to the point where he completely forgets himself. In proportion as one loses himself in this way, in the same degree does he get the highest happiness out of his work.

高等商業學科

英文國語

一、左の文を解釋せよ  
かざりけり風塵のけしきはなほたぎしといひて弁いたるなりぬしかれとちひれもすた浪風たぐすのたぎとり

一、山はえはからぬかたかななりけり  
二、左の熟語に假名を附け且つ解釋せよ  
鳩首凝議、暗中摸索、意氣軒昂、矛盾、撞著  
三、左の片假名を漢字で改めよ  
フカのタイミン、コウワンをフヨタナ、フカホウショウ(かるはじみとむがま)

四、左の歌より總ての活用語を抽出し其の活用形を記せ

未然形	終止形	連體形	活用形	命令形
取れ	取る	取る	取り	取れ

英文國語

(I) The West has during the last two hundred years moved far ahead of the East merely because certain Western nations have been able to devise new tools for the conquest of nature and for the multiplication of the power to do work.  
(II) The two newcomers looked at one another, laughed and then settled into their corner. The han-

already appeared with their drinks. I stood up and looked out of the window. The shower had almost ceased to a few scattered drops, brightening in the sunlight. And the water outside the garden had collected itself into a broad pool.

專門部第二部

法律學科

英文國語

一、左の文を讀みて次の間に答へよ  
「天地と共に」といふことは日本人の好んで用ひた譬喩であるそれは唯に日本精神の幽玄な神秘的な一面の表現である蓋しそれが日本民族の神といふ觀念の一基調であらう「神ながら言葉げせり國」を誇る實行的な日本人が深遠な哲理と神秘的な情調とに富む佛敎を理解し消化し得た所以も「此の民族性」の存在に歸することが出来る  
一、「天地と共に」トイフ意味  
二、「神ながら言葉げせり國」ノ解釋  
三、「此の民族性」トハ何カ  
二、左の語に假名を附け且つ解釋せよ  
上梓、海標、秋立  
三、左の片假名を漢字で改めよ  
フタツフトウ(たむけ事)  
カンナムシタ、キサラキ、ハケン(ひんせ十事)  
四、左の歌の中の傍線を引きたる語の品詞の名を傍線の右に書け

た能のおとはたえてひびく  
なりぬれどなごさむかれ  
なほきこたけれ

英文國譯

(I) There is nothing too little thing for so little a creature as man. It is by studying little thing that we attain the great art of having little misery and as much happiness as possible.

(II) Thoughtful men and women have lost a great deal of pride in humanity during the last twenty-four years. The loss of confidence in the soundness of modern civilization began on a large scale in Europe in 1914, with the start of the first Great War.

經濟學科・商業學科

國語

一、左の文を讀みて次の問に答へ  
教師に志す者が身を勞し徳を無し口舌に物の議論を明らめむとする大類は法の法界の聖徳の勳行に類入しとよ覺たす學藝の世界にこの世行の側面多は維新精神に熱意を試むる問題としてナレバこの堂に燈はちきり身の歸してて甘受する所なり

- 一、身の歸する處由
- 二、何ぞ甘受する
- 三、次の語方意義

イ、學語。ロ、勳行

發送、早て女、むら暗た

三、左の半譯者を讀みて改めな  
イセ( )しむれる事の、スカジタロウ。  
ナイヌイ( )とくはの事( )オホソッキ。  
ニヒリヨウ( )けもひをとる事( )  
四、左の文の括弧の中へ適當なる假名を  
當つて

思を受けて有難しと思( ) は人の情  
なり。有難しと思( )つたと思( )  
ことを知るは人のため( )。  
有難しと思( )はらな( )、  
思( )と心をかけ( )。心に  
( )つた、 )つたなされ

英文國譯

(I) Christ Himself said: "Foxes have holes, and birds of the air have nests." Indeed, there is no animal that has not some kind of home; it may be a humble one, but it suffices for its needs.

(II) Nobody can tell how long the war will last, and while it goes on there may possibly be some hardships which have to be overcome. But the whole nation, firmly believing in the certainty of victory, will do its utmost in its individual work and in the establishing of the Greater East Asia Co-Prosperity Sphere.

國語漢文專攻科・英語專攻科

國語

ナ

近き世の人の歌も文もおかたはあ  
うしと見ゆることもなほひびくこと多き  
かしされどそのたが( )かしを見し  
る人はた世になければただかいなで  
にく( )かしとえんたる語をつかひし  
めきてよみなし誓きさらしたるをばま  
ことによしと見て人のもてはせしほめ  
たつれば心をやりてしたりがほすめる  
いとかたはらいたくまがましく( )  
と思はる

一、左の語に證據者を( )け且つ解釋せよ  
一、駁句に 二、木暗し

漢文

左の文に返り點送り假名を施し餘白に解  
釋を記せ

皇天以新日進。天下之極遠。固有入  
所不及者。然日力征而不已。則亦無  
所不至也。皇之源流遠矣。苟不盡之功。  
日進不息。久則可以上達也。

國語漢文專攻科

英文國譯

(I) The main thing was that he must not tell anybody about it. Nobody! Not for anything. It was for this reason that during the interval, after the geometry lesson, he chose the friend he cared for least — a pale boy with a big head, the most wicked of his classmates.

nities for mass experiments. When the individual life does not count, when money is of no importance, and when large-scale tests become unavoidable for the common good, progress advances by leaps and bounds in every field.

英語專攻科

英文國譯

(I) We had arranged to meet at the north entrance of the museum, and together to visit that part of the building where a show was being given of paintings drawn from actual scenes of the Greater East Asia War.

(II) In every garden four things are necessary to be provided for, flowers, fruit, shade, and water; and whoever builds a garden without all these must not pretend it to be in any perfection. It ought to be in the best parts of the residence, or to those of the master's commonest use, so as to be just like one of the rooms out of which you step into another.

國文英譯

(III) 日本人だとすれば、彼等より煙草をくれない。子供が手を出さずして、それらとを父がくちくちする。

校 支

欄

常任幹事會

第二回校友會常任幹事會は四月十四日(水)午後五時より天六學舍會議室において開催した。さる三月十五日第一回常任委員會にて協議決定の本年度事業につきその實行計程につき再検討し、本年度豫算を協議し、時局に即應したる事業遂行に着手する。會館、外地支部訪問等については尙調査研究立案中である。

出席者：神戸會長、岩崎那一、阿田清作、加藤昌秀、樺本信雄、里見復二、春原源太郎、樋口哲四郎、三島律夫、森川太郎

福岡支部

春季例會を決議下の四月四日正午より櫻咲く西公園の「櫻亭」に於て開く。嶽々として降りしきる春雨は一きは風情を添へ、時恰も春朝中のパーモビルマ行政府長官一行を西公園高臺に迎へるあり、遠く日可より深谷判事も委會しどくどくと校友來集し、決議下文部の活動方針等につき協議した。やがて三和銀行馬場氏携帶の特種飲料にて晚餐を共にし、高崎氏により記念撮影をなし、母校の高臺を三遍して午後六時頃散會した。

秀麗會(關東州支部)

二月十八日午後六時より第八二回例會

を東公園町講義學生會館に開催した。當日は高嶺支部長、川野、秀島、萩原の常連方が欠席されたのは淋しい。だが室山、岩本さん久しぶりに登場、新來の松川君を加へて十一名、傳統とは三へ洵に和やかな雰囲気裡に會は開かれた。幹事より決議體制下、嚴線統後の區別なき今日、本會の會合も時局に即應して新しき體制をとるべきである、爾今例會には夕食を廢し、お茶菓子程要に止め、會を一層意義あらしめたいと提言、當夜は南方戦線歸りの松川君の自己紹介から嚴線土産話に移り、時刻を忘れて傾聴し午後八時十分樂歌を高唱して閉會した。

出席者：室山宇太郎、守谷賢治、岩本壽三郎、山下三郎、平井三郎、加來茂彦、北條茂義、荒川源一郎、松川謙樹、竹峯隆三、小川立朝

臺灣支部

中村支部長榮轉祝賀會 中村支部長は總督府法務局長より高等法院檢察官長に榮轉されたので、その祝賀會を兼ねて春季總會を去る二月六日午後七時半より新北投「如水莊」に於て開催した。

校友を代表して山本老より祝辭を述べれば、中村支部長より謝辭あり、ついで小谷幹事長より會計事務部に會員の消息を報告し、出席諸氏交々戰戰等公の體裁

の歌を賀演し、和氣強々の裡に十時頃散會した。尙辭祝電を寄せられたのは臺南の眞田俊雄、井上敏雄、嘉義の向井成夫、臺中の福島通夫、高雄旗山街の蔡友成の諸氏であつた。

出席者：西村信雄先生、中村八十一、山田榮次郎、山本末松、山口正成、久保田豊太郎、村上達、林佛留、齋藤武次、高橋文惠、渡邊駿男、小谷茂雄

會員消息

天宅 俊治(大15大政) (任地方警視、夜警察署長)
小川 言吾(大13專法) (基隆市明治町合同課長、專賣局基隆支局)
大井 謙三(昭3專商) 西宮市常盤町一五(旭琺瑯社取締役工場長)
大西 秀雄(大14專商) (神戸市葦合區臨濱町二ノ二九、神戸東國民職業指導所長)
梶 榮(大1專法) 生野區役所庶務課長
川崎 政勝(昭9專二法) 吉林省德惠縣公署官舎一六號(德惠縣勞務股長)
吳 龍一(昭16大法) (平壤府雨町、平壤地方法院判事)
坂 修次(昭10專二法) 神戸市灘區上野通五ノ一二九(三宮警察署外事係)
瀬戸 茂夫(昭9大法) (威北水産統配會社專務取締役)
高橋和三郎(昭9大法) (永南郡佐野町、

島田直信(大14專法) (信貴山病院理事)
玉木 豊吉(大14專法) 豐中市新見一〇九〇(桃園化工商會社取締役)
德竹 要(大15大法) (任地方警視、天王寺警察署長)
中島 平吉(昭3大經) (警部、情報課長)
前田 金吾(大14專法) (池田市會議長、平野炭鑛瓦斯會社取締役)
武良 操(大15大法) (任地方警視、港水上警察署長)
村上 三政(昭12專二法) (木浦庶務安通、光州地方法院木浦支線檢事)

訃 音

加地 義興(昭10專二商) 南方戦線で去る一月十二日戦死の旨公報があつた、遺族東淀川區元今里南通二丁目、加地芳子殿
島田、忍(昭13專二商) 入隊中急逝された。遺族堺市熊野町東三ノ三九、父島田惣三殿
高木 啓(昭14專二經) 三月二十九日逝去。遺族神戸市灘區岩屋中町四ノ三三、母高木みき殿
水野 重榮(昭17大經) 二月十日逝去、遺族神戸市須磨區山下町二ノ五四、水野重忠殿
吉田 毅(昭16大法) 二月十五日逝去。遺族京都府何鹿郡鞍部町四〇、父吉田謙作殿

昭和十八年入學者  
出身學校別調查表

大學 豫科

○中學校の部

瀧川(一四)尼崎(一〇)高津、泉(八)天王寺、市岡、茨木、上宮、豊中、神戸三、難(以上七)今宮、浪速(以上六)桃山、大阪、八尾、小野、三田、高松(以上四)堺、岸和田、高津夜間、伊丹、甲陽、津、欽勝、丸龜、以上三)生野、住吉、四條畷、富田林、姫路、加古川、神港、京一中、高田、海草、米子、關谷、滋養(以上二)

專門部第一部

法律學科

○中學校の部

北野夜間、神戸一中、神戸二中、明石、柏原、前野、洲下、赤穂、大牟、京二中、桃山、舞鶴、福知山、平安、大谷、彦根、膳所、虎遊、皇野、宇陀、五條、十津川文武館、天理、海府、和歌山、田邊、粉河、日高、北海、八戸、江北、神通、水見、羽咋、武生、小坂、松本、甲府、掛川、名古屋、大社、濱田、松江、岡山一中、岡山二中、興譲館、廣島二中、崇徳、山陽、忠海、廣島高師、附屬中、山口、下關、宇部、安下庄、高次、高松一中、松山、宇和島、北條、越智、三島、門司、朝倉、三池、小倉、東筑、築上、佐賀、大分、長崎、海星、鎮西學院、川内、京城、大野、郡山、龍山、全北、高敏、光州東、大連三中(以上一)

○實業學校の部

天王寺(八)扇町、東、關西甲種、第一神港(以上四)市岡、西區、或、神戶一商(以上二)關西、貿易、堺、京阪、關大二商、市岡二商、興國、西宮、第二神港、難、育英、姫路、龍野、報徳、京一商、京二商、四條、福知山、和歌山、敦賀、愛知、松江、愛島、豊國、上海日本商、堺工、關西工(以上一)

經濟學科

○中學校の部

豐岡、小松、福井工(以上一) 鳳(五)尼崎(四)生野、上宮、豊中、難(以上三)今宮、浪速、堺、甲陽、加古川(以上二)天王寺、市岡、岸和田、住吉、富田林、高津、高津夜間、北野、北野夜間、立津、茨木、三島、伊丹、六甲、三田、赤穂、明石、小野、桃山、平安、東山、彦根、膳所、上野、海草、興讓館、福山、大田、興月、海星、東京、三登、海府、育英、東海、駒込、帶廣(以上一)

○實業學校の部

東、扇町、關西甲種、四、市岡、第一神戶、京二商(以上三)第一神港、中外、京一商(以上二)西區、關大二商、或、明星、浪華、城東、日新、北陽、此花、京阪、第二神戶、北神、報徳、高松、坂出、笠岡、小倉、大垣、育英、宇部、宮、堺工(以上一)

高等商業學科

○中學校の部

鳳(六)瀧川(五)浪速、八尾(四)豊中、桃山、尼崎(以上三)生野、岸和田、上宮、四條畷、神戸二中、伊丹、倉吉、安下庄(以上二)市岡、今宮、北野、住吉、堺、小野、加古川、神戸三中、三田、姫路、神港、鳳鳴、明石、神戸二、中夜間、京一中、東寺、宮津、舞鶴、欽勝、天理二、膳所、田邊、神戸、津和野、福山誠之館、修道、尾道、豊

○實業學校の部

明里(一)九、東(七)西區(六)敬養(五)北陽、堺、京阪、天王寺二商、北神、報徳、京部三商、和歌山(以上四)市岡、扇町、浪華、四條(以上三)兩海、興國、關西甲種、福島、初芝、天王寺、飾磨、神戸一商、神戸二商、大津、岡山二商、松江(以上二)貿易、市岡二商、城東、此花、興國二商、東二商、西區二商、日新、大阪、神港二商、姫路、京一商、奈良、洲山一商、倉敷、戶手、愛島、鳥取、徳島、高知城東、高知、愛知、育英、名古屋二商、東京錦城、防府、福井、公教公立(以上一) 專門部第二部(省略)

天六學舎、區名變更

本年四月一日大阪市の増設、區制改正により大學本部、專門部、關西甲種商業學校、第二商業學校の所在地「東淀川區」は「大淀川區」と改稱された。

舊稱 大阪市東淀川區長柄中通  
二丁目十二番地  
新區名 大阪市大淀川區長柄中通二丁目十一番地